

想いに寄り添い
心と技術でささえ
地域と未来につなぐ

社会福祉法人
農協共済 中伊豆リハビリテーションセンター

センター長 挨拶

Q1 着任前の勤め先は？

産業医科大学を卒業後、すぐにリハビリテーション医学教室に入局しました。その後各地の労災病院を勤務したのち、浜松医科大学病院を経て、前任は獨協医科大学リハビリテーション科学講座の主任教授を務めていました。

Q2 専門を教えてください。

脳や脊髄の障害に対するリハビリテーション診療が専門で、義肢装具の専門医でもあります。また運動生理学分野で学位を取得しております。リハビリテーション治療の中心とも言える運動を基盤にして、他職種の方と連携しながら障害をお持ちの方の家庭復帰、社会復帰をサポートしていく所存です。



美津島 隆
みずしま たかし

Q3 どのような時に幸せを感じますか。

ありふれているかもしれませんが、自分が担当した患者さんが、疾患を克服され家庭復帰、社会復帰を果たされた時に、この仕事のやりがいと幸せを感じます。

Q4 センター長就任にあたっての抱負をお願いします。

静岡県の中でも東部医療圏は医師の数も少なく、その地域に居住される方に医療サービスをどのように提供するか、は非常に大きな問題です。それはリハビリテーション診療においても例外ではありません。中伊豆リハビリテーションセンターをリハビリテーション医療の中心となるべく、努力していく所存です。

数字から見る『中リハ』のリハビリ実績と傾向

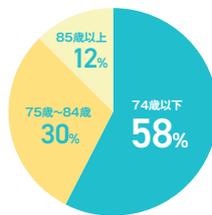
当センターは『回復期リハビリテーション』に特化した病院です。リハビリテーションの専門家として、より効果的なリハビリを提供し、ひとりでも多くの患者様が自立・社会復帰に繋がるよう、日々研鑽しています。

患者様は比較的若い方が多く、疾患別では脳血管疾患系が全体の8割を占めており、高い回復実績を挙げています。

年齢別割合

全国平均と比較して
若い方が多い

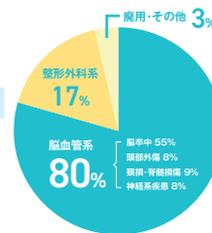
※74歳以下
全国平均：31.5%



疾患別割合

脳血管系の疾患と
脊髄関連疾患
が多い

※脳血管疾患割合
全国平均：42.2%



入院時FIM平均と改善値

※FIM:日常生活の自立度を数値化したものです。(126点満点)

全国平均より高い
日常生活の
自立度(社会復帰)
を実現

高次脳機能障害を伴った脳血管疾患患者(令和6年度実績)



入院時平均FIM
退院時平均FIM改善値

※実績報告対象者

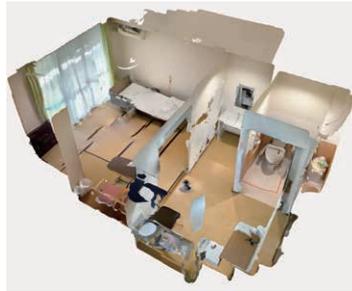
中伊豆リハの退院支援体制

当センターでは、患者様の退院後の生活を入院初期から見据え、より効果的なリハビリテーションを提供するため「地域連携課の理学療法士」が在籍しています。

入院時訪問指導加算を算定して実施する入院時訪問は、全国の回復期リハビリテーション病棟の約60%のうち、約2.2%と、ごく少数*であり、その取り組みをご紹介します。

※一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会
【回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書(2024年度版)】より

院内の生活体験室の3Dデータ



俯瞰図



上面図(間取り図)

1 入院時訪問

入院後7日以内に患者様のご自宅を訪問し、3Dスキャンを用いた家屋調査および入院前の生活状況の確認を実施しています。この情報は、入院中のリハビリテーションプログラムの立案や、退院時の住環境整備の提案に活用しています。

2 連携

院内での多職種連携はもとより、退院後に患者様を支援していただくサービス事業者様への情報提供も行っています。また、一部の患者様には退院後の生活状況の調査にご協力いただき、当センターにおける退院支援の質の向上に役立っています。

3 直接支援と教育

退院前訪問には担当のリハビリテーション職員と同行し、患者様に対する直接的な退院支援の実施や、研修会の企画や若手教育を行っています。

令和6年度研究業績表彰および業務改善賞の紹介

当センターでは毎年4月の創立記念日に、前年度における研究業績表彰および業務改善賞の表彰を実施しています。今回は、訪問看護ステーションあおぞら伊豆が受賞した取り組みを、皆様へご紹介します。

研究業績表彰受賞コメント



リハビリテーション部作業療法科

今回、受賞頂いた研究論文は、脳卒中片麻痺者の「排泄時の下衣を上げる動作」に着目し、その運動学的・運動力学的特徴を明らかにした研究になります。今後も、片麻痺者に対するリハビリテーションの発展に貢献できるよう、研究活動を継続していきます。

研究テーマ

Analysis of movements involved in raising lower garments during toileting in patients with stroke and hemiplegia: An analysis focused on manipulation on the paretic side.

発表先

Clinical Biomechanics Vol.120



リハビリテーション部言語聴覚療法科

この度は特別優績表彰を授与いただき、大変光栄です。今回の表彰いただいた研究は失語をもつ方の自動車運転再開に向けた評価をテーマにしたものです。今後も当センターの取り組みが皆様にも伝わるよう、臨床業務と併用して研究活動にも精進していきます。

研究テーマ

失語症が脳卒中ドライバーのスクリーニング評価日本版(J-SDSA)の成績に及ぼす影響
-J-SDSA成績と実車評価成績が乖離した失語症者3例での検討

発表先

総合リハビリテーションVol.52

業務改善賞の紹介



IT機器の導入と業務効率の見直しにより、残業時間を大幅改善

事業所内における業務の見直しとデジタルデバイスの導入により、訪問の隙間時間の有効活用に取り組みました。

その結果、業務効率がアップし、残業時間が前年度比50%以上のカットを実現。活気ある若手と理解あるベテランがタッグを組み、労働衛生の改善や新人定着を実現しました。



訪問看護ステーション
あおぞら伊豆 所長

今回、数多くの応募の中から表彰していただき、大変うれしく思っています。

あおぞら伊豆の職員は20代から60代で、お世辞にもIT機器を使いこなせる者ばかりではありません。業務効率化においてiPadや業務用チャットアプリの活用など、若手の新しいアイデアを負担に感じた職員もいたと思います。また業務と分担の見直し直後では一時的に残務が増えた職員もいました。「時間内に終わらせよう!」という意識はもちろんですが、新しい取り組みに対して、全職員が前向きに「やってみよう!」と実践した事が良い結果につながったと思います。これからも職員の声を形にしていきたいと思ひます。

